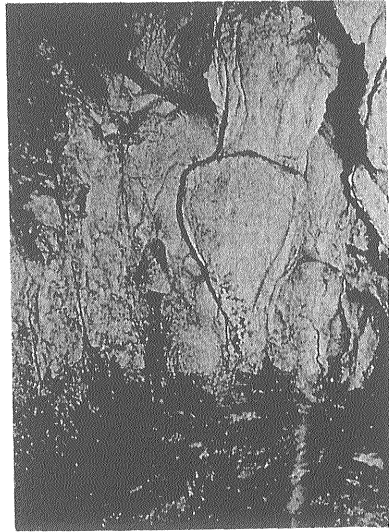


であって この岩屋観音窟が(6)洞穴によって指定されたものでないことがわかった。

そうと知っていれば 5年前に 観音像をもっとよく観察してくればよかったと悔んでも後の祭りである。善男善女の信仰に水をさす気は毛頭ないが こんごもし機会があれば さらに詳しく調べてみたいと考えている

ともあれ過去数十年にわたって戦争とともに盛衰した鉱山の真真中に 平和を象徴する 世にも珍しい観音像が安置されているのは 奇特のいたりというべきであろう。 リバイバルブームの世の中にあって ただ平和のために 観音さまの御利益のあらたかならんことをわれひとともに祈りたい。

(筆者は 鉱床部)



岩屋上窟の鐘乳石
石灰洞の高さは約1mこの鐘乳石の右のところをはって入り洞はさらに奥に続く

学会 ニュース

伊豆半島白岩化石採集旅行

とき 昭和37年11月18日(日)
目的 レピドシクリナなどの大型有孔虫の採集
行程 東京発8時6分(準急東海2号) 三島着9時54分 修善寺10時30分 東京帰着20時38分の予定
費用 交通費のみ(電車賃920円準急100円)
指 導 国立東京科学博物館古生物学課 氏家 宏氏
携帯品 ハンマー ルーペ 管びん 地形図(15万 修善寺)
申 込 申込順30名で〆切 博物館普及課へ問合せの上お申し込み下さい。 電話 (821) — 3771 (代)
雨天中止

学術講演会

とき 昭和37年11月15日(木) 2:00—4:00PM
会場 国立科学博物館本館1号館講堂
演 題 地質年代の測定
講 師 学習院大学教授 木越 邦彦氏

第6回 粘土科学討論会

とき 昭和37年11月7日・8日 10時—4時
会場 日立ファミリーセンター 仙台市東四番丁51 日産生命ビル1階 電話 仙台(5) 1683
内 容 特別講演 (1) ベントナイトと有機高分子

川口桂三郎 (京都大学農学部) 教授

(2) 東北地方の地下鉱物資源—分布とその利用— 鈴木廉三九 (東北大学理学部教授)

一般講演 粘土中のカオリン鉱物と緑泥石との鑑定法

生沼郁氏 (東洋大学) ほか その他26題 シンポジウム

(1) 粘土鉱物の赤外線吸収

(2) 沸石—成因・産状およびその利用— 粘土研究会

地球化学討論会開催される 地球化学研究会の秋季討論会(日本化学会関東支部と共催)が次の日程で開催されました

研究発表

10月11日~10月13日 地質調査所会議室 エクスカーション

10月14日~10月15日 箱根 伊豆半島 研究発表は課題討論と一般研究発表(講演数47)とに分かれ 3日間休憩時間もないほどの盛況で 連日100名以上の熱心な聴講者が集まり関係者を喜ばせました。 課題討論の題目および講演者は次の通りです

- 1) ジオクロノロジーの諸問題 年代測定と宇宙線 小田稔(東大核研) C¹⁴法による絶対年代測定 木越邦彦(学習院大理) U, Th—Pb法による絶対年代測定 斎藤信房(東大理)

K—Ar法による絶対年代測定

植田良夫(東北大理)

日本における結対年代測定例について 野沢 保(地 調)

2) 有機地球化学研究の技術問題

有機地球化学の技術—分離および抽出 小山忠四郎(名大理水質研)

石油と底沈中のポルフィリンの分析技術 G.W. Hodgson(カナダアルバーター石油研)

有機地球化学の技術—機器分析 半谷高久(都立大理)

3) 隕石の化学

隕石の化学 浜口博(教育大理)

隕石および地殻物質におけるランタン系元素のパターンの相異の解釈とその意義

〇松井義人 増田彰正(東大理)

各種隕石の成因についての考察

〇西村雅吉(北大大理)

E.B. Sandell(ミネソタ大)

隕石中の宇宙線生成物

本田雅健(カリフォルニア大 現東大物性研)

エクスカーションは約50名が参加して行なわれ 箱根火山および伊豆半島などの地質学的な解説と温泉についての説明[高橋倉沢両技官 室住正世教授(室蘭工大)]が行なわれました

討論会の詳細は紙面の関係で省略致しますが 講演要旨は事務局(地球化学課)にありますのでご利用下さい

最後に今回の討論会が皆様のご協力により無事終了致しましたことをお礼申し上げますとともに 担当者の手落ちで地質ニュース(9月号)に学会開催の掲載が洩れましたことを深くお詫び致します

(技術部地球化学課)